



しょうかん

小寒（5日）… 青く澄んだ空に冷たい風が吹きます …

年末、池の水がなくなっていることに気付いた子どもたちは、池に水を運ぶプロジェクトを展開しました。年が明け、かえでの葉っぱはほとんどが散っていて、木の周りに集めると山のようにになりました。その落ち葉も子どもたちにとっては遊び道具、教材となっていきます。

<芹乃栄 せり すなわちさかう 1月5日～9日>

小寒の初候は「芹乃栄」です。「せり、なすな、ごぎょう、はこべら、ほとけのぎ、すずな、すずしろ」。芹は春の七草の一つです。冷たい水辺で育ち、一か所から競り合って生えることから名前がついたのだそうです。

<大事件、池の水がなくなった！>

園庭奥にあるワクワク池は、15年以上前に、保護者の皆さんに協力していただいて作ったビオトープです。ゴムシートで水が漏れないようになっているのですが、年末にはすっかり水がなくなっていました。その異変に気付いた年長児たちが、「園長先生、大事件！」「池の水がなくなっちゃった！」と報告に来てくれていました。年長担任は、子どもたちのその気付きと意を受け止めつつ、今回も子どもたちが自分から一歩踏み出すのを待つ指導をしていました。

<水がないと生き物が大変…>

子どもたちにとっては、どうして水がなくなったのかよりも、とにかく水をなんとかしなければという気持ちの方が大きかったようです。オタマジャクシやカエル、ヤゴなどを見付けてたくさん採ってきた経験から、生き物が大丈夫なのかという心配があったのでしょうか。初めはバケツやジョウロで水道から水を運んでいましたが、埴が明かないと気付き、たくさん水を運ぶ方法を考え始めました。

<一度にたくさんは運べるけれど…>

水道のところにあるベビーバスに水を入れることを思い付いたのはよかったのですが、いざ運ぼうとすると重すぎて動きません。担任は、子どもたちがいろいろなアイデアを出し合っていく様子を見守りつつ、時々方向付けていました。そのうち、築山の斜面にゴザを敷いて滑って遊んだことを思い出し、ゴザに乗せれば動くのではないかと意見がまとまり、みんなであれこれ試しながら、ゴザの上にベビーバスを乗せて、引っ張って押して、何とか池まで運びました。

<課題を見付け、自分で決めて、友達と一緒に>

何とか運び切って、池に水を入れ、歓声があがりました。それでも池の水はいっぱいにはなりません。結局、後は地道な人海戦術となったのですが、メンバーは入れ替わりつつ何度も水を運び続ける姿には本当に感心させられました。

自分から課題を見付け、自分の意志で始め、しかも友達と一緒にだから楽しい、だから続けられる。これこそが幼稚園で育てたい生きる力だと、うれしく思った一連の活動でした。



わくわく池の水がなくなっている！



水を運ぼう、よいしょ、よいしょ！



ようやく池に到着。やった、大成功！



まだまだ水が足りないね



何度も水を運び続ける子どもたち